

■取付工事ご様子へ

設置工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据付けてください。
なお、この工事説明書は、工事終了後に取扱説明書と一緒に必ずお客様にお渡しください。

- ストップを設置する場所には、電気設備に関する技術基準、火災予防条例に定められた設置をする必要があります。各地区の市・町・村火災予防条例に従ってください。
- 施工上の責任は当社では負いかねますので、万一施工上起因する不具合が生じた場合は、貴店の保証規定によって修理いただくようお願いいたします。
- ストップ本体にテープで貼付けられている注意チラシなどは読んだ後取り除き、お客様にお渡しください。
- 取扱説明書に従って「特に注意している大切なこと」「使用方法」「アフターサービス」「保証」についてお客様に説明してください。

3P40030330A

●ここに示した事項は **⚠ 警告**、**⚠ 注意** に区分しています。

⚠ 警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

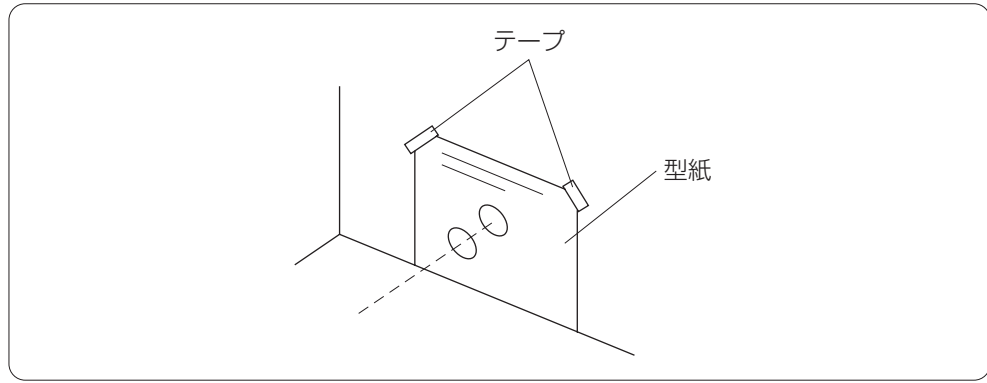
●イラスト(まんが)の横にあるマークは次のように表しています。

裏面につづく

給排気筒標準設置取付け型紙

型紙の使用方法

1. 型紙の下端を床に合せて壁に貼り付けてください。
2. 給排気筒穴位置に印をつけてください。
 - 同時に壁固定金具用穴位置にも印をつけてください。



ストーブ排気口位置



標準設置 給排気筒穴位置

穴（直径80～85mm）の中心が
この範囲内にあること。

試運転

- 試運転は使用者とご一緒に必ず行ってください。
詳しくは取扱説明書の40ページを参照してください。

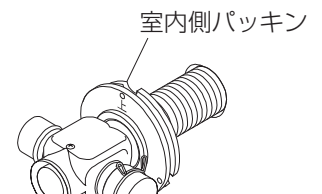
廃棄するときの注意

- ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。
リサイクルの支障となります。

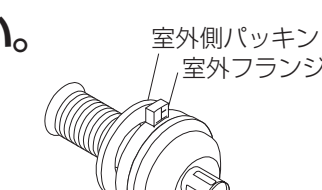
給排気筒の取り付け(つづき)

標準給排気方式の工事方法(つづき)

5. 室内側給排気筒を壁穴に差し込んでください。
 - 室内側バックシンを通し、壁穴に差し込んでください。



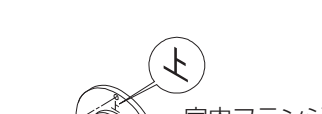
6. 給排気筒トップを取り付けてください。
 - 給排気筒トップに室外フランジ、室外側バックシンを通し、室外側より壁穴に差し込み、室内側給排気筒に半分ほどねじ込んでください。



ご注意

- 雨水が激しくかかるところや濃霧が発生する地域では、雨水の壁内浸入を防ぐため、ねじ込み部にコーキング剤などを塗布してください。

7. 室内側給排気筒の室内フランジを固定してください。
 - 室内フランジを「上」の文字が上になるように、付属のねじ（4×25、3本）で壁に固定してください。



8. 排気管抜け検知リード線を接続してください。
 - ①ストーブ背面に固定してある排気管抜け検知リード線をストーブより外し、のばしてください。
 - ②排気管抜け検知リード線の先端の端子を、ねじで固定してください。



ご注意

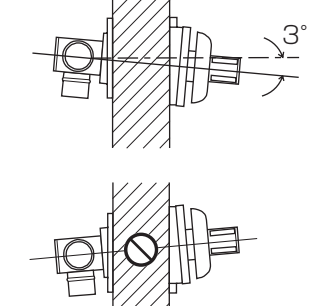
- 排気管接続部へのストッパーリングの取り付けや排気管抜け検知リード線の先端の端子固定を確実に行って、接触不良を起こさないようにしてください。
排気管の接続部が外れていたり、排気管抜け検知リード線が正しく接続されていないと、「E40」を表示し点火できません。
- リード線は給排気筒の高温部に触れないようにしてください。

9. 給排気筒トップを固定してください。
 - 室外フランジのつまみが上になるように、つまみを持って壁面に押え付けながら、給排気筒トップをさらにねじ込んでしっかりと固定してください。



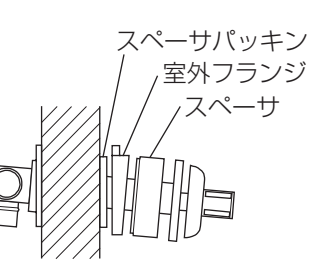
ご注意

- 給排気筒の取り付け完了時に給排気筒が3°下向きになるように、室内・室外フランジの取り付け向きには十分注意してください。
雨水がストーブ内に入り異常燃焼したり、室内や壁内に浸入することがあります。



壁厚が12～15cmの場合は付属のスペーサを使用してください。

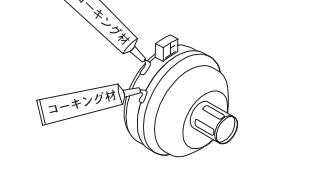
- スペーサを室外側給排気筒に通してください。
- 給排気筒内の結露水で壁が汚れるおそれがある場合や寒冷地などで給排気筒の先端が氷結するおそれがある場合
- スペーサを使用し、給排気筒トップを壁から離してください。（壁の厚さは12～22cmまで）



10. 室外フランジ部にコーキング剤を塗ってください。

ご注意

- 完全にコーキングしないと、雨水が室内や壁内に浸入することがあります。



11. ストーブより排気管エルボを外してください。



- ストッパーを固定しているねじ2本を外し、排気管エルボを外してください。



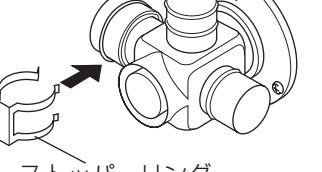
12. 排気管エルボに付属の排気管断熱カバーをかぶせてください。



13. 排気管エルボを給排気筒に取り付けてください。



- ①室内側給排気筒の排気口に排気管エルボを差し込んでください。
- ②差し込み部のリップをはさんで付属のストッパーリングをかけてください。



14. ストーブと排気管エルボを接続してください。

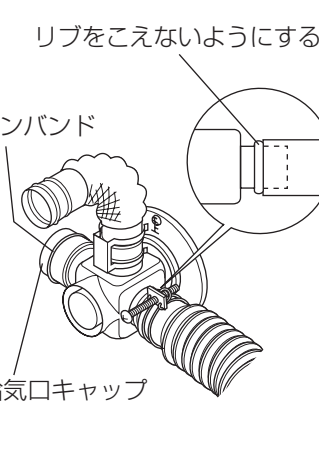


- ①ストーブを動かし、ストーブの排気口に排気管エルボを2段目のリップが完全にストーブ内に入るまで差し込んで、接続してください。
- ②ストッパーを排気管エルボに押し当て、ねじ2本を締め付けてください。



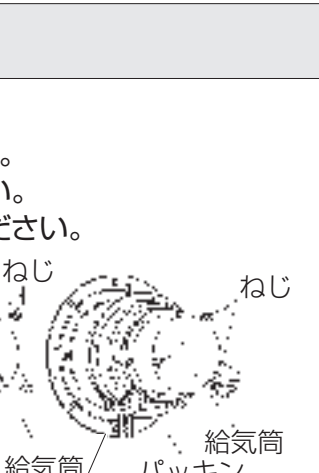
15. 給気ホースを給排気筒に固定してください。

- ①給気ホースに付属のワイヤーバンド（大）を通してから、給気ホースを給排気筒の給気口のリップまで差し込み、ワイヤーバンド（大）で締め付けて固定してください。
- ②給気口は2箇所ありますので、使用しない給気口には給気口キャップを取り付け、ピンバンドで固定しておいてください。
- ③排気管抜け検知リード線を給気ホースにビニテープで固定してください。（ビニテープは電源コードをたばねているものを使用してください。）
- ④余分なリード線をビニテープでたばねてください。



給気筒の角度変更

- ねじ3本で給気筒の角度を変えることができます。角度を変更する場合は下記に注意して行ってください。
(1) 給気筒にコードがかまれないように注意してください。
(2) 給気筒とバックシンにすき間がないことを確認してください。
(3) 取り外したねじを必ず使用してください。
10mm以上の長いねじを使用するとねじがファンに当たりファンが回らなくなります。



壁固定金具による本体の固定

給排気筒の取り付けが完了したら、ストーブと壁とを付属の壁固定金具で固定してください。

- 壁の材質により壁固定金具の固定する方法が異なりますので、「**壁の固定**」を参照して適切な方法で固定してください。

延長給排気方式・高地使用時の工事方法

- 標準給排気以外にも排気管や給気管を延長して取り付けることができます。給排気筒の呼び径D40タイプの別売延長セットを使用して延長工事を行ってください。
- ストーブについている排気管抜け検知リード線は約80cmまで延長できます。それ以上の場合は別売延長コード線（FR-3Z）で延長してください。
- 延長配管部材を使用する場合や標高400m以上の高地で使用する場合は、燃焼用送風機の回転数を補正する必要があります。以下の手順と表を参考にして設定してください。
- 設定方法
①電源プラグをコンセントに差し込んでください。
②操作切替スイッチAを押したまま③→④→⑤のスイッチを順次押してください。
その後、操作切替スイッチAを離してください。
③デジタル表示部の表示が「H0E0」へ切り換ります。（「H」は標高、「E」は延長を示します。）
④設定したい内容を表示させて操作切替スイッチAを押し、通常の表示に戻せば設定完了です。
⑤燃焼確認を行ってください。
点火、最小燃焼、最大燃焼、消火、再点火を行い、異常がないことを確認してください。
着火遅れが確認された場合（ガラス越しに白煙が見える）は、高地または延長設定のいずれかを「1」下げます。（例：「H3」→「H2」）
最大燃焼時に赤火になる場合は、高地または延長設定のいずれかを「1」上げます。（例：「H1」→「H2」）

高地調節

- ③の「△」を押すと「H0」→「H1」→「H2」→「H3」と切り換り、④の「▽」を押すと「H3」→「H2」→「H1」→「H0」と戻ります。

標高	高地設定
0～400m未満	H0
～700m	H1
～900m	H2
～1200m	H3

- 工場出荷時の設定は「H0E0」です。
- 排気延長は排気管エルボを追加した場合も含まれます。
- 高地・延長設定の数字が大きいほど、燃焼用送風機の回転数が高くなります。

調節例：標高500mで給排気延長0.5m、排気管エルボ1個追加の場合、標高・延長設定は「H1E1」に設定します。

ご注意

- 延長配管の長さは3m以下、曲がり数は3箇所以下になるように配管してください。それ以上延長しますと異常燃焼することがあります。
- 延長配管の排気・給気のそれぞれの長さや曲がり数は同じにしてください。
- 排気管の取り付けはストーブ本体出口を最も低い位置とし、上り勾配で取り付けてください。
下り勾配や凹部になっていますと排気管にドレンがたまり、異常燃焼の原因になります。
- 排気管接続部の全てにストッパーリングの取り付けを確実に行ってください。「E40」を表示し点火できないことがあります。
- 最大使用標高は1200mです。それ以上標高が高いと異常燃焼の原因になります。
- 設定方法がわからなくなった場合は、電源プラグをコンセントに入れ直し最初からやり直してください。

壁固定金具用穴位置

送油ホース接続口位置

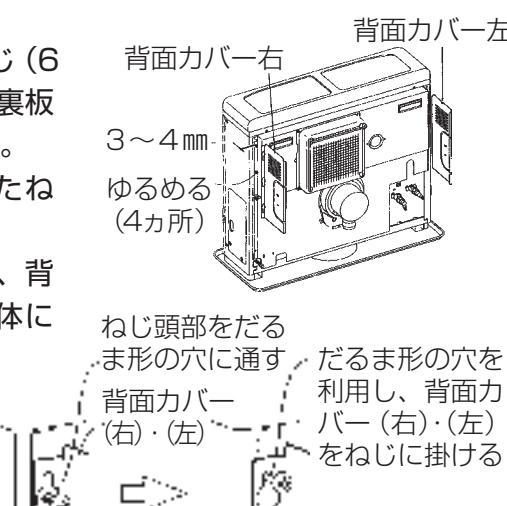
据付け(つづき)

背面カバーの取り付け

背面カバーを取り付けてください。

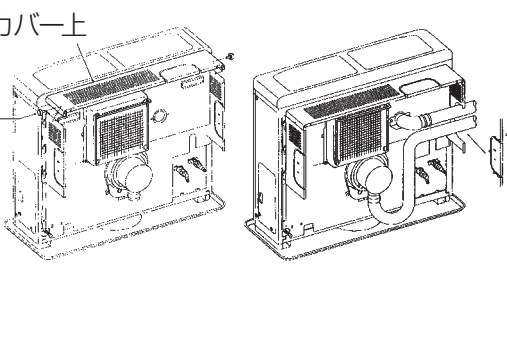
■標準設置時の取付方法

- ①ストーブ本体裏板を固定しているねじ（6本）を緩め、ねじ頭部とストーブ本体裏板に3～4mmのすき間をあけてください。
- ②背面カバー（右）・（左）を①で緩めたねじにひっ掛けてください。
- ③①で緩めたねじ（6本）を締め付け、背面カバー（右）・（左）をストーブ本体に固定してください。
- ④背面カバー（上）を付属の化粧ねじ（2個）で背面カバー（右）・（左）に固定してください。



■延長配管時の取付方法

- ①背面カバー（右）・（左）・（上）いずれかの配管用穴をニッパなどで切り取り、穴をあけてください。
切る際は切り残しに注意してください。
- ②あけた穴に延長配管を通してください。

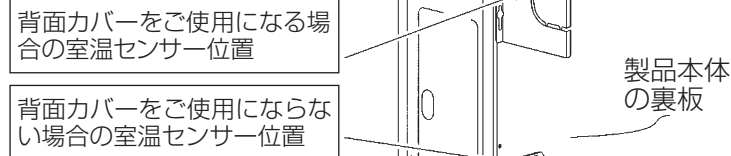


室温センサーの取り付け

室温サーミスタを固定してください。
背面カバーを取り付けない場合は、ストーブ背面の裏板の穴に取り付けてください。

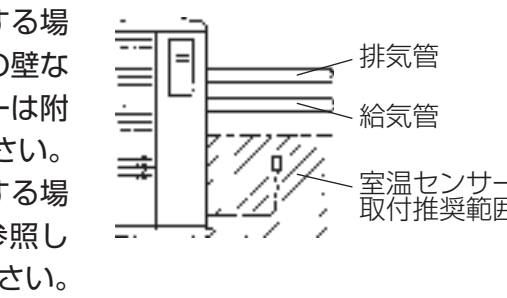
■標準設置時の取付方法

- ①ストーブ背面に固定してある室温センサーのリード線をストーブより外し、のばしてください。
- ②背面カバー（右）の「□」形の穴に室温センサーのつめを差し込んだあと、反対側のつめを「□」形の穴に差し込んでください。（背面カバーの外側より穴へ差し込んでください。）



■延長配管時の取付方法

- 背面カバー（右）の配管用穴を使用する場合は、室温センサーをストーブ背面の壁などに移動してください。室温センサーは付属のねじ（4×12）で固定してください。
- 背面カバー（左）の配管用穴を使用する場合は、「標準設置時の取付方法」を参照して背面カバー（右）に取り付けてください。



ご注意

- 快適な室温制御を行うため、室温センサーの取り付けは必ず行ってください。
ストーブ背面に取り付けたままですと、正しく室温調節しません。
- 室温センサーは直射日光やふく射熱、すきま風が当たるところには取り付けないでください。
正しく室温調節しません。

床パネルの接続

■パネルの組立

- パネルはサンボット純正のパネルを使用してください。
- 床パネルの設置は床パネルに同梱されている取扱説明書をお読みください。
- 2回路でご使用の場合は別売部品のヘッダーを使用してください。ヘッダーの取り付けはヘッダーに同梱されている取扱説明書をお読みください。

■ツインチューブの接続

- 配管の長さや美観を考慮して本体裏面の温水行き、戻りのバルブに付属のツインチューブを接続してワンタッチクランプで固定してください。
- 給水のしかたは取扱説明書の41ページ「床パネルへの給水とエア抜き」のしかたをご覧ください。

